

会 議 録

会議の名称	第19期東村山市社会教育委員会議（第16回）				
開催日時	平成24年11月22日（木）午後7時～9時				
開催場所	東村山市役所いきいきプラザ4階 教育委員会室				
出席者 及び欠席者	<p>出席者：</p> <p>（委員） 吉井 四郎議長 ・ 土田 士朗副議長 宗像 宏中委員 ・ 伊藤 二葉委員 小山 栄子委員 ・ 島崎喜美子委員 吉満 洋子委員 ・ 桑原 純委員 當間 昭治委員 ・ 杉本みさ子委員</p> <p>（市事務局） 間野雅之教育部次長 神山正樹社会教育課長 齋藤文彦社会教育課生涯学習係長 野崎美里社会教育課生涯学習係主任</p> <p>欠席者： なし</p> <p>（委員） （市事務局）</p>				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の 場合はその 理由	/	傍聴者 数	1人
会議次第	<p>1．あいさつ</p> <p>2．報告事項</p> <p>（1）第54回全国社会教育研究大会山梨大会兼第43回関東甲信越 静社会教育研究大会</p> <p>（2）東京都市町村社会教育連絡協議会 第4ブロック研修会</p> <p>（3）東京都市町村社会教育連絡協議会 会則の一部改正に関する説 明会</p> <p>（4）東村山市青少年健全育成大会</p> <p>（5）児童育成計画推進部会</p> <p>3．協議事項</p> <p>（1）（仮称）生涯学習計画への意見反映</p> <p>3．その他</p> <p>（1）第18回会議日程について</p>				
問い合わせ先	<p>教育部社会教育課生涯学習係</p> <p>担当者名 齋藤・野崎</p> <p>電話番号 042-393-5111（内線3513）</p> <p>ファックス番号 042-397-5431</p>				
会 議 経 過					
<p>1．あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 議長、教育部次長よりあいさつ <p>2．報告事項</p>					

(1) 第54回全国社会教育研究大会山梨大会兼第43回関東甲信越静社会教育研究大会について

(議長) 10月24日～26日に山梨県甲府市総合市民会館で開催され、当市からは私が出席した。記念講演、シンポジウム、分科会別研修等が行われた。

(2) 東京都市町村社会教育連絡協議会 第4ブロック研修会について

(議長) 11月1日、小平市健康センターにて開催され、当市から6名の委員が出席した。「防災への取り組みを通じた学校・家庭・地域との関わりについて」というテーマの下、事例紹介、講演会が行われた。

(3) 東京都市町村社会教育連絡協議会(以下、「都市社連協」という) 会則の一部改正に関する説明会について

(事務局) 11月15日、稲城市役所で開催され、先に実施された都市社連協会則の一部改正に関するアンケートにおいて、「改正しない」もしくは「継続協議とする」と回答した市町の事務局職員が出席した。都市社連協事務局の稲城市からは、アンケートで「改正する」と回答した市町村が過半数であったため、改正する方向で動きたいと説明があったが、第5ブロックに所属する4市から、改正に関しては慎重に行うべきという意見が相次いだ。当市事務局は、改正の有無について、明確な方向付けをしてほしいという意見を述べた。結局、この件については、引き続き都市社連協事務局で整理をしていくことで集約された。

(4) 東村山市青少年健全育成大会

(事務局) 11月17日(土)に開催された。例年同様、絵画・イラストの発表、中学生の主張作文発表、青少年善行表彰を行った。また、アトラクションで合唱の披露を行った。来場者は多く大変盛況であった。

(5) 児童育成計画推進部会

(議長) 11月20日(火)に行われた。保育のあり方検討会等の報告がされた。

3. 協議事項

(1)(仮称)生涯学習計画への意見反映

● 生涯学習協議会について

(社会教育課長) 去る10月26日に第1回生涯学習協議会が開催された。それぞれの立場、専門分野の視点から生涯学習に関するご意見をいただいた。次回は11月26日(月)に開催する。社会教育委員会議でも、協議会の進捗状況について、資料を配布しながら報告していきたい。

● 東村山市の生涯学習の基本とは

(社会教育課長) 今後の協議会開催に向けて、社会教育委員会議で「生涯学習とは何か」委員の総意・共通認識を確認したいので、皆さまから率直なご意見をいただき、計画に反映できればと思う。皆さまには、前回配布した資料を若干修正して事前に配布した。事前にご覧になっていただいていると思うので、この内容を踏まえてご意見をいただきたい。

(A委員) 協議会の最終的な目的・役割は何か。

(社会教育課長) 最終的には、皆さまからいただいたご意見や庁内で検討された案を提示し、それについてのご意見をいただき、最終的にご承認いただく方向で動いている。

(教育部次長) 案を最終的にお示ししてご承認いただくのが協議会である。最終的に計画を作成するのは市である。

(議長) 協議会は3回開催するのか。

(教育部次長) 3回というのは、あくまでも予算上の開催回数であり、議論を重ねる中で、状況に応じて回数を増やすことも検討している。

(議長) 生涯学習は広い概念であるので、限られた回数で意見を集約するのは難しいと思う。だからこそ、協議会の中で内容の濃い審議をしていただきたいと思う。そして、各分野の要素をまんべんなく汲み取ってほしい。

(議長) 東村山市の生涯学習の基本とは、に移りたいと思う。

(社会教育課長) 社会教育担当課長会の研修で配られた資料である。生涯学習の歴史が書かれてある。家庭教育・学校教育・社会教育の中で学習に取り組む機会があるということが解説されている。生涯学習には、その他にも、無意図的学習とか、独力的学習がありそれらについても書いてある。知の循環型社会のイメージ解説がされているが、当市でもこれらが行われているかと思っている。みなさんがイメージする生涯学習について、ご意見いただければと思っている。

(議長) 私たちが考える生涯学習の意見をいただきたいということであるが、なかなか難しいテーマであるので、委員各位が普段から考えていることがあれば、言っていただきたい。地域とかグループで描いている生涯学習の概念があればお話しいただきたい。

(C委員) 学校に偏ってしまうが、広く考えると、高齢者の方でも社会人の方でも、主婦の方でも、そういう方のニーズにこたえて学習の機会を提供すること。学校で考えると、生涯学習のためになにが必要かということ、子どもたちに自分で考えたり、学んだりする力を育てることが生涯学習につながっていくのではないかと。

(社会教育課長) 普段関わっているところを参考に考えてもらえると。

(C委員) 学校に関わると、子どもたちは一人で考えたり学んだりすることがなかなか難しいこともあるので、そういったところをどうやって育てるかということ、地域の高齢者施設などを訪問し、学んだり吸収することで成長していくものがある。

(議長) 学校の中で生涯学習についてどう教えているのか。

(C委員) 小学生にはピンとこない部分が多いが、一生学び続けていくものだよということはある。個々の関わりの中で教えている。

(D委員) 行政側が仕掛ける生涯学習のチャンスとか狙いとは別に、日々暮らしている中で、やっていることが、結局はそれが社会教育につながっている、生涯学習につながっていることがかなり多いような気がする。自分から自ら学びたいからどこかに行こうという人もいるが、そういう分野もたくさんあるが、子ども連れの親子が、楽しそうだからそういうグループに入ってみて、子どもがいろんなお友達をつくってくれたはということが、広げてみると、それが生涯学習になっている。学校や職業も違う人たちの集まりにより、親自身も成長していけるのではないのか。それが目指しているものに近付いているのでは。行政側は、そういう活動をしているグループとかを支援していつてもらいたい。場所の提供とかコミュニティの紹介とか、支援の手立てはたくさんあると思う。小平市の研修会では、貴重なDVDを見せてもらった中で、たて・よこの連帯と斜めの連帯が大事でしたとお話がありました。たて・よこ・ななめのつながりが社会を強くしているのではないかと感じた。個々にやっている団体はたくさんあるが、団体をつなぐことも大切ではないかと。

(E委員) 0歳から80歳までの、家庭教育・学校教育・社会教育は地域を大事にしていく、人を育てることを軸にしていかななくてはいけない。場の設定も大切だが、地域を生かしていることが大切であると思う。学校では、知識を教えるのではなく、子どもたちには学び方とか人とのつながりを教えた。それが生涯学習につながる。家庭教育においても地域が大切。地域とのかかわりを核にしていくことが必要では

ないか。

(議長) 学校での小学生の学習と地域との視点、生活に根差した生涯学習の考え方が出てきているが。簡単な輪切り方だとそれくらい。私は仕事の関係で、「生涯学習学び方を学ぶことである」ということ標語として学んだ。「学び方を学ぶ」とは、いろんな知識などを社会の中でどのように獲得していくのか、その手段や方法を学んでいくことが生涯学習ではないかということである。放送大学やカルチャーセンターに行くのもいいが、そういうツールをどう作っていくかも生涯学習かなと思う。地域とのつながりを考えると、個人の趣味とか自己満足で片付けるのではなく、自分の知識を外に発信することも必要ではないかと思う。最終的には、地域の連帯がうすれているので、個人が果たす役割をどう具体的にしていくかが、生涯学習に求められているのではないかと思っている。

(A委員) 東村山市の生涯学習の基本とはとなっているが、学校では目標に向かって地域とのかかわりを重視している、考える力を重視している。東村山市が生涯学習を推進するためには、地域との連携をしていきます。ということが基本になるのでは。学問的にいうものではないと思う。スポーツはやりたいというニーズがある。それを整備していく必要もある。小学生の中には、何をやったらいいかわからない子どもがたくさんいる。スポーツのなかで、サッカーや野球をやっている子以外に、スポーツ教室をやっているが、自分自身が気づくことが多い。足が速かったとかがわかって、自分を生かす場所を見つけるきっかけともなる。そういうことも生涯学習につながっているのではないか。

(B委員) 基本という部分では、まさにそのとおりだと思う。何かを感じた時に、そこに参考になる場所あるいは人、市民のニーズにこたえられる手法とか手段を手助けしてやるものが生涯学習計画ではないかと思う。市民意識調査では、不満に思っていることが多い。市民が学びたい時にどこに行けばいいのかわからないから不満なのかなと思う。人との関わりを手助けしてあげないと、生涯学習につながっていかれない。その初歩をやっていかないといけない。その部分から切り込んでいかないといけない。

(A委員) 私も同感。不満が多い。満足・不満もそこそこということであれば、関心は全体に低いということにつながっている。

(D委員) 市からのアンケートで、こういう回答が市民から返ってくるということは、アンケートに答えている人に関心がないからと思う。このような対策をどうしていくかも生涯学習が果たしていくものとなりえるのでは。どちらとも言えないと考えている人たちに、どんどん関心を持ってもらえるようにアプローチしていくことも必要ではないか。

(議長) 行政と市民のギャップをどう埋めていくのか。その解決策をどう導きだしていくのか。東村山市の生涯学習とは、公民館や図書館がどうやって出来たのか、図書館であれば美住町のでんしゃ図書館から始まった。公民館だと、建物もない中で、公民館をつくる会とかの力があって、それが源になって生涯学習がされてきた。

(B委員) 公民館は、要望があったからつくってきた。でも、つくってくれて言った時のニーズはあったが、稼働率は現在あまりよくない。原因を追及していかなくては。人がなぜ寄りなくなってきたのかを検証しなくてはいけない。

(A委員) 公民館は、大人の学校と呼ばれて、地域の課題を解決するために人が集まっていた。今はカルチャーが中心となっている。教育施設であるならば、人が集う施策を打っていかなくてはいけない。

(D委員) 民間的な発想では、利用料金を下げてみればいいのか。アナログ的な

アプローチの仕方、50歳代以上は、何か調べようとするときにまずはネットを使う。公民館の講座とかチラシなどを調べるような時は有効であるが、講座に申し込むことができない。

(A委員) 公民館については、生涯学習という視点でいけば発想を転換することもいいのではないか。

(B委員) 公民館を建て替えるというようなプロジェクトもあると思うが、複合施設としてなるのであるなら、生涯学習の拠点になるようにしてもらいたい。市民が気軽に使えるパソコンの部屋があって、ネットをすとか。

(議長) 利用率が低くなったことは、建物が古いとかではなくて、講座の持ち方とかが関係しているのではないか。地域の拠点としての公民館は、介護・DV・地域連帯など、現代的な課題を行政として取り組んでいかなければならない。それが公民館の役割ではないか。ネットはつまみ食いではない。それなりの内容であるなら、それなりの場所にいて、学ぶことが必要であり、そういう場所が公民館だったはずである。

(F委員) 施設の問題が取り上げられているが、どういう施設がどういうことをやっているか、市報に掲載されているが、場当たりのでいまいちだと思う。つい最近、清瀬市あたりでは市報をグレードアップした。かなり力をいれている。市民の大事な情報ツールである市報をグレードアップして、生涯学習の材料として使ったらどうか。「きょういく東村山」も内容的に不十分。毎回同じことが書かれている。もう少し視点を変えてつくってもらいたい。ふれあいセンターでは、いろいろなサークルがたくさん活動している。コミュニティとしては一生懸命活動している。場の提供としてはふれあいセンターは機能を果たしている。

(G委員) 東村山市の生涯学習の基本。東村山市がどうして生涯学習計画を立てるのかから入った。イメージは人を育てたいからと思った。人を育てるためには、人と人とのつながりの中でしか人は育たない。人と人とのつながり、地域と人とのつながりを大切にしていけないといけない。

(E委員) 市報をみると公民館の講座などが紹介されていて、行ってみたいと思う。行った講座によっては、リーダー的な人がいればその講座を卒業した後もサークルとしてつながっていく。教えることは学ぶことと言われるので、市の職員が教えていくような講座をやっていってもらいたい。本当に忙しくてできないと思うが。

(社会教育課長) 資源循環部では、ゴミの減量講座に取り組んでいる。

(議長) 市が出前講座をしているものを把握しているのか。

(社会教育課長) 全ては把握していない。

(議長) そういうものを網羅していった紹介していかないといけないのでは。そういうものを体系化していければいいと思う。

(B委員) 人との関わりということで、昨年の震災を受けて、私の住んでいるコミュニティを市に登録する自治会にしようと考えている。家庭の次に近くにあるものとしては、地域コミュニティの活性化・自治会をうまく位置づけることが役立つのではないかと思う。

(社会教育課長) 今出た意見もほかの審議会でも出ている。地域の関係が希薄化していることは、どの審議会でも共通の問題として持っている。

(F委員) 情報は欲しいけど、面倒なことには関わりたくないという市民が多い。だから自治会に加入しないというところが多い。キーパーソンになる人が重要。立ち上げは大変だが、うまくいくと行事にも参加してもらえ、挨拶してもらえようになる。地域が元気になるような気がする。高齢者に対してニーズをとらえ

てまとめていくか。組織の活性化。

(副議長) ずいぶん前から同じことを繰り返しているなど。地域教育プラットフォーム・知の循環型社会、それだけ重要なことだとは思う。とらえ方も広い。難しい概念なのかなと思う。

(議長) 東村山市に視点を置いたときにどうなのかなという意見・具体策をいただいた。学校・生活に根差す。問題解決の手法とか。情報メディアの充実。内容と施設・魅力ある施設づくり。スポーツ活動を通じた自己発見・評価・人を育てる・人と人とのつながりとかと切り口もいろいろあり、それがツリーの下の具体的内容(策)となるのではないか。この計画の目指すところは何かを試行錯誤しながら考えていきたい。体系の個々につながるキーワードを出していければ魅力ある計画になると思う。知恵を絞っていければいいと思う。

4. その他

- 第18回会議日程について 平成25年1月23日(水)午後7時から